

第 25 号（2025 年 5 月 8 日）

発行：広島大学マスタース広島事務局

「広島大学マスタース広島」紹介特集

「頭と体を使っています。一緒にいかがですか？」

今号は、「広島大学マスタース広島」の紹介を特集して発行することにしました。昨年度末までに本学を退職された教職員の皆様に向けて、当会への新規加入をお誘いするため資料として当会を紹介する記事をまとめてみました。キーワードは

「頭と体を使っています。一緒にいかがですか？」

です。皆様の目に留まって新規加入に結び付くことを願っています。

まず、当会の会員から皆様へのメッセージとして4編の記事を掲載しています。その後、例会の実施、ミニ懇話会の開催、広島大学から依頼された講義担当、総会と幹事会の開催などの活動状況を簡潔に紹介し、最後に今後の予定と会員異動と続いています。

【読者の皆様へ】当会のウェブサイトにも是非アクセスしていただくようにお願いしたいと思います。以下の URL にアクセスして、「お知らせ」、「事業概要」、「会報」、「例会などの案内と報告」などのページをご覧ください。本号に記載の項目や関連する項目について、より詳しく説明した記事あるいは別の視点から記述されている記事を閲覧すること、およびファイルをダウンロードすることができます。

[「広島大学マスタース広島」のホームページ](#)

【目次】

1. 会員からのメッセージ

- ・ゲーリー・クーパーの思い出 三井 正信
- ・豊かな第二の人生を廣大マスタース広島で過ごしませんか 寺本 康俊
- ・春の例会に参加して 圓山 裕
- ・「平和科目」授業ガイダンスを終えて 植村 泰夫

2. 例会の実施

3. ミニ懇話会の開催

4. 広島大学から依頼された講義の担当

5. 総会と幹事会の開催

6. 今後の予定

7. 会員異動

Ⅰ. 特集：会員からのメッセージ

当会の会員から皆様の新規加入を歓迎するメッセージとして4編の記事をまとめています。趣味である古い映画の鑑賞、退職後の人生の楽しみ、例会参加で思い出す修業時代、講義担当と学生への思い、などについて、紹介や感じたこと、あるいは伝えたいことなどがそれぞれの立場から記述されています。特集のキーワードの通りに様々な活動を通じて頭と体をしっかり使っている様子が伝わってほしいと思いながら、皆様に会員となっていただいて活動を共に続けていくことが実現するように願っています。

Ⅰ.Ⅰ. ゲーリー・クーパーの思い出

三井 正信

前置き

昨年、入会させていただきました。入会后、ミニ懇話会と春の例会に参加させていただきました。最初は行事に参加するのに非常に緊張していたのですが、先輩の皆様方は非常にフランクで優しく接していただき、またイベントも楽しく、入会して本当によかったと思っています。定年後の人生が広がった気がします。このような新参者なのですが、春の例会の折に会報に何か書いてほしいと依頼され、この文章をしたためることになりました。新しい会員の勧誘等に役立つテーマを自由に選んでよいということでした。自由といっても、あくまで広島大学マスタース広島に関係あることを書くのが本筋で、何を書こうかと迷っていたのですが、新入会員のみならずすでに会員の先生にもアピールでき、堅苦しくない内容でと考えているうちに、ご提示の趣旨を広く解して、映画の話を書くことにしました。これだと映画好きの先生に入会していただけるかもしれませんし、すでに会員となっておられる私より上の世代の先生がたとも共通の話題ができてよいのではないかと考えた次第です。また、一見遠回りのようですが、最終的には、入会勧誘にもつながる落ちもつけています。以上で前置きは終わり、本論に移りたいと思いますが、これからの本論の記述はです・ます調ではなく、である調にさせていただきます。

古い映画が好きである。特に、1930年代から40年代にかけてのアメリカ映画やフランス映画に心惹かれる。

映画に興味をもち本格的に観るようになったのは中学3年のとき、1972年のことである。周りに映画好きの友人がたくさんおりそれに触発されたのである。そうはいっても中学生のこと、小遣いも限られていたので、必然的に毎日のようにテレビでゴールデンアワーに放映されていた洋画劇場を観ることが中心となった。当時そこで放映されていた映画は1960年代のものが主流で、映画といっても様々なジャンルやスタイルがあり、ただただ日々新しい世界が開け感心するばかりであった。そして、それでも飽き足らず、さらに午後11時過ぎからテレビ放映されていた深夜劇場にも手を広げることとなった。深夜劇場は1930年代や1940年代の古い映画が主流で、そこではまた1960年代とは違ったセピア色の古き良き時代の世界が待っていた。1973年のオイルショックで電力事情が悪くなり、深夜劇場もなくなってしまったのだが、それまでの1年半という短い期間に色々な映画を観た。印象に残っているものとしては、アメリカ映画では、

「キング・コング」(33)、「或る夜の出来事」(34)、「オズの魔法使い」(39)、「レベッカ」(40)、「いちごブロード」(41)、「断崖」(41)、「汚名」(46)、「白い恐怖」(46) など、フランス映画では、「我等の仲間」(36)、「望郷」(37) などが思い浮かぶ。このような深夜劇場体験が私を古い映画好きにしたのである。

さて、古い映画のなかでもとりわけ心に残っているのがゲーリー・クーパーの主演作である。クーパーの誠実そうな人柄、スマートさ、格好良さなどに惹かれたといってよい。その頃にテレビで観たクーパー作品は、必ずしも深夜劇場ばかりではないのだが、また 1950 年代の作品も含まれるのだが、「モロッコ」(30)、「永遠の誓ひ (テレビ放映題名は「天使とペテン師」)」(34)、「平原児」(36)、「西部の男」(40)、「ヨーク軍曹」(41)、「打撃王」(42)、「クーパーの花婿物語」(44)、「征服されざる人々」(47)、「遠い太鼓」(51)、「真昼の決闘」(52)、「悪の花園」(54)、「ヴェラクルス」(54)、「西部の人」(58)、遺作の「六年目の疑惑」(61) の 14 作品、その後、大学生のころに名画座やリバイバルで観たのが、「誰が為に鐘は鳴る」(43)、「昼下がりの情事」(57) の 2 作品である。いずれも印象に残っているのだが、その中でもとりわけ「真昼の決闘」と「打撃王」が感動とともに深く心に刻まれている (写真 1, 写真 2)。

実は、家庭の経済的事情で、高校受験は滑り止めの私立を受けず、学費の安い公立 1 本でいくことになったのだが、受験前、私立高校入試が終わり友達ととりあえず行き先を確保してほっとしているなかで、どうなるのかと不安が募ってきていた。その時に偶然ほぼ同時期にテレビで観たのが「真昼の決闘」と「打撃王」であった。クーパーは、前者では正義のため孤独にひとり凶悪犯を迎え撃つ保安官を、後者ではニューヨーク・ヤンkees の名選手ルー・ゲーリックを演じ、ともに前向きに勇気を持って進んでいく姿を示しており、不安な気持ちのなか高校入試に立ち向かうべく大いに勇気づけられたものである。これがクーパー好きの本当の理由かもしれない。

とにかく、以後、クーパーは私の心のなかに大きな地位を占め、大好きな俳優となったが、クーパーの主演作は古い作品であるため、しばらくはこれまでに言及した作品以外を観る機会に恵まれなかった。しかし、ほぼ 20 年ぐらい前から著作権切れでパブリックドメインとなった古い名作映画が廉価版 DVD として発売されるようになり、そのなかにはクーパーの主演作も多く含まれていた。そのおかげで、多くの (20 本を超える) 未鑑賞作品を観ることができ、クーパーをめぐる新たな世界が広がった。つくづくいい時代になったと感じたものである。そして、購入したもののいまだ観ていない DVD も 5 枚あり、まだこれから新たに様々なクーパーに出会えるのかと思うと、期待が膨らむ思いである。

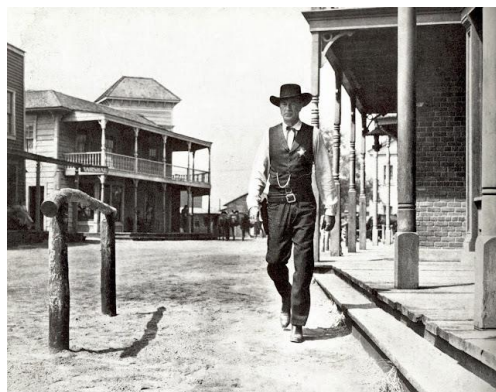


写真 1 : 「真昼の決闘」での保安官
(三井会員提供)

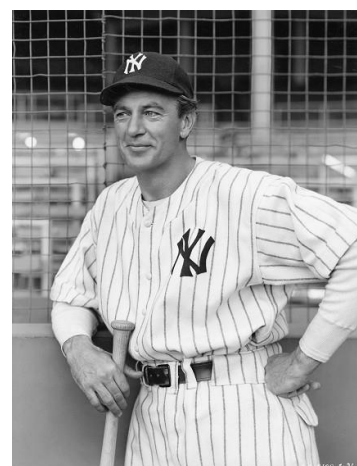


写真 2 : 「打撃王」での野球選手
(三井会員提供)

本稿のタイトルを「ゲーリー・クーパーの思い出」としたが、クーパーは私の3歳のときに亡くなっており、リアルタイムでの思い出があるわけではなく、詰まるところ中学から高校へかけての若い頃の自分にまつわる思い出なのである。そのころ（特に「真昼の決闘」と「打撃王」の）クーパーから勇気をもらったおかげで、専願となった公立高校にも無事合格することができ、その結果、ひいてはいまの自分があるような気がする。とくに、思い返せば、いままでの人生で挫けそうになったときには、いつも「真昼の決闘」の主題歌であるハイ・ヌーンを口ずさんでいた気がする。とにかく、人生色々あったが、これまで何とかやってこられたおかげで、広島大学において研究に邁進するとともに多くの学生や教職員の皆さんと交流することができたのであり、現在ではマスターズに入会して会員として多くの広島退職教職員の皆様と接する機会をもつことができるのである。これからはマスターズの皆さんとできるだけ広く交流させていただき以後の人生を有意義に過ごしたいと考えており、是非とも多くの方に入会していただきたいと祈念する次第である。その思いにつなげるためにクーパー云々を述べてきたのである。

なお、最後に、蛇足というか余談というかを書かせていただきたい。たぶん大学生のころだったと思うのだが、チケットをもらったので大阪の心斎橋にあるとあるホールに「ぶっちゃけトーク」という放送作家のトークショーを観に行った。これは複数の放送作家が客席からお題をもらい、そのなかから各人が選んだお題をもとに自由にトークするという形式のものであったが、その時に「ゲーリー・クーパーの思い出」というお題を書いて提出した。すると木村民六という放送作家かがそれを取り上げ、トークの冒頭で「ゲーリー・クーパーは1901年、丑年生まれ」と切り出した。丑年ということまで知っているということは年季の入ったクーパーファンに違いないが、クーパーと丑年というのがイメージ的にどうもしっくりこないと感じたものである。これも思い出の一つである。

1.2. 豊かな第二の人生を広島マスターズ広島で過ごしませんか

寺本 康俊

この度は、定年退職、おめでとうございます。これまで、広島大学に、長年、ご勤務され、その間、数多くのご貢献をされ、本当にお疲れさまでした。

さて、ご退職後は、これまでの人間関係も次第に稀薄になるかのご推察申し上げますが、広島市の広島東千田キャンパスを活動拠点とする広島マスターズ広島で、これまで文系、理系の幅広い分野で活躍されていた教員の方々並びに大学運営を支えてこられた事務系職員の方々と有意義な交流をして、豊かな第二の人生をお過ごしになられませんか。

総会、春と秋の例会（県内各地の名所旧跡、観光地、工場、ミュージアム等の訪問）、ミニ懇話会（会員の先生方がご専門の研究や学問分野などをわかりやすく紹介）など、適切な時期に、和やかで楽しい行事等があります。

皆さまのご入会を、心よりお待ちしております。

1.3. 春の例会に参加して

圓山 裕

4月15日、花冷えのする広電井口駅で例会参加者を待っていた。宮島線の電車に乗ったのは何年振りだろうか。コロナ禍で停止していた本会の活動が再開する中でも、春の例会への参加は初めてだった。正直なところ、訪問前は「おこのミュージアム、オタフクソース本社工場の見学」にはそれほど興味を持てなかったのだが、展示を見て説明を聞いていくうちに、昭和のレトロな雰囲気に入り、デーツに纏わる思い出が蘇った。また、被爆80年となる戦後の広島復興を感じるひとときでもあった。

おこのミュージアムの展示では、昭和30年代のお好み焼屋（写真3）と駄菓子屋などの商店（写真4）の再現に、「そうそう、こんなだった」と故郷の当時の商店街の風景が蘇った。特に、店舗内の什器や道具類の風情に見覚えがあったし、何よりもブラウン管の白黒テレビと雑誌「少年画報」の表紙は少年時代の記憶そのものだった。また、駄菓子屋などの商店の造作も往時の雰囲気をうまく再現していると思った。昭和27年生まれの私は、戦後の高度経済成長の恩恵を受けて成長し、平成のグローバル化の波に乗って活躍する機会が得られた恵まれた世代だと再認識することにもなった。



写真3：お好み焼屋の内部



写真4：駄菓子屋などの商店

お好みソースの材料としてデーツが使われている（写真5）ことは知っていたが、私にはデーツに特別の思い出がある。1981年から2年間、フランス科学院の研究所に留学していた時に、徹夜で実験する機会が度々あった。大型の実験装置の運転では、フランスの旧植民地（アフリカ諸国）出身の留学生がサポートしてくれた。実験の合間の休憩時には、持参したパンや果物やワインを夜食としてアフリカ人留学生と分け合ったが、彼等がくれたのがデーツだった。その素朴な甘味と噛み応えのある果皮が口内に長く残ったまま実験を再開したものだだった。

私自身の修業時代が懐かしく思い出され、改めてデーツを味わってみたいくなり、オタフクソース本社の売店で買ったデーツの袋が（写真6）である。デーツに関する説明に依ると、



写真5：デーツに関する展示

オタフクソース社が輸入するデーツの原産国は、地中海の東南沿岸の諸国となっていた。しかし、売店で買った袋に記された原産国はアメリカだったので、少し残念だった。

写真6：売店で買ったデーツ



おこのミュージアムの見学の後、隣接するオタフクソース本社工場へ移動して、ソースの製造ラインの一部と箱詰めされた製品の搬出場を見学した。(写真7)はソースが注入された容器が次々と流れてきて、ラベルを容器に貼付する装置の辺りを撮ったものである。この後に袋詰めされてお馴染みの製品(写真8)となって出荷される。飲食品メーカーの製造ラインの映像ではよく見かける場面だが、現物が目の前を高速で進んで行く様子は圧巻だった。

また、製造ラインの自動化と製品搬出のロボット化など、食品メーカーの省エネ化と衛生管理の取り組みに感銘を受けた。オタフクの社名とロゴの由来についても胸に響くものがあった。本社工場には、お多福のお面や人形、玩具などの収集品も飾られていた(写真9)。



写真7：オタフクソースの製造ライン

広島のスウルフードお好み焼に欠かせないオタフクソースに込められた平和への祈りが感じられる見学会であった。



写真8：お好みソースの製品
(見学のお土産として、
出来立ての温かい品物を
頂戴した)

写真9：お多福にまつわる収集品



1.4. 「平和科目」授業ガイダンスを終えて

植村 泰夫

私たち「広島大学マスターズ広島」は、現在、「平和科目」として「平和と人間 Cー広島で学ぶ(原爆とは何だったか)ー」(霞キャンパス、第2ターム開講)、「平和と人間 Dー広島から未来に向けてー」(東千田キャンパス、前期、夜間開講)という2つの授業を、一部は会員外の先生方の参加を仰いで、実施しています。

このうち、「平和と人間Ⅱ」の授業は4月14日(月)から始まりましたが、この日は植村が担当してガイダンスをおこない、70名の受講者に(登録は71名で、残念ながら1名は欠席でした)、この平和科目がどのようにして誕生したのか、この「平和と人間Ⅱ」の授業のねらいはどこにあるのか、単位の取り方などについて説明しました。また、今年が被爆80年であるということに鑑みて、昨年、ノーベル平和賞を受けた日本被団協の代表委員である田中熙巳さんの受賞記念演説を配布し、是非とも読んで下さいと呼びかけました(これは、授業の中で読みあげるつもりにしておりましたが、残念ながら時間がなく、断念しました)。



写真10：平和科目の授業風景
(村島修氏撮影、圓山幹事提供)

講義の内容は次のようです。

第1回4月14日「授業の概要と説明、単位認定について」(元文学研究科：植村泰夫)

第2回4月21日「放射線の被曝とその影響研究の意味

—広島からセミパラチンスクまで—」(元原医研：星 正治)(A)

第3回4月28日「いろいろな放射線の身体的影響Ⅰ：広島原爆被曝、チェルノブイリの
原発事故を含めて」(元原医研、医師：武市宜雄)(A)

第4回5月7日「いろいろな放射線の身体的影響Ⅱ：甲状腺との関係」(武市宜雄)(A)

第5回5月12日「両次大戦間の国際関係」(元文学研究科：岡本 明)(B)

第6回5月19日「原爆と終戦をめぐる日本外交とその国際関係」
(元社会科学部研究科：寺本康俊)(B)

第7回5月26日「両次大戦間の日本」(岡本 明)(B)

第8回6月2日「インドネシア日本軍政(1942～45年)をめぐって」
(元文学研究科：植村泰夫)(B)

第9回6月9日「広島はなぜ“軍都”になっていったのか？」(元文学研究科：勝部真人)(B)

第10回6月16日「広島が“軍都”であったから原爆が投下されたのか？」(勝部真人)(B)

第11回6月23日「被爆と復興計画・復興の実施」(元工学研究科：石丸紀興)(C)

第12回6月30日「被爆建物とその保存問題」(石丸紀興)(C)

第13回7月7日「日本の文学に描かれた原爆」(元教育学研究科：岩崎文人)(C)

第14回7月14日「原爆と真珠湾とアメリカの国民性」(元文学研究科：田中久男)(C)

第15回7月18日「ヒロシマを語り継ぐ」(元理学研究科：圓山 裕)(C)

第16回7月28日 期末試験(植村泰夫)

この授業では、昨年から各講義担当者の先生方に授業内容の要約を提出していただき、それをガイダンス時に受講生に配って、授業の概要を予めより詳細に知ってもらうことにしておりましたが、今年はさらに踏み込んで、2つの工夫を加えました。1つは授業内容を(A)放射線被曝、(B)世界史のなかのヒロシマ、(C)広島復興と継承、の3つに大別し、なるべくそれにあった配

列にしたことです。上に挙げました授業タイトルなどの最後にある(A)(B)(C)は、それを示しています。これは授業担当の先生方のご協力をいただいて、実現することができました。2つめは、授業要旨が記されたプリントを配布するだけだった昨年とは異なり、授業中にそれを読み上げ、いくつかの解説を付け加えたことです。これによって、受講生諸君のこの授業に対する認識がいっそう深まることを期待しております。

さて、この授業では90分間の時間のうち、最後の10分間を「コメントシート」記入に充て、受講生諸君にその日の授業についての感想などを述べてもらうのが決まりになっており、ガイダンスでも書いてもらいました。70枚のコメントシートに目を通して気がついたのは、この授業に対する期待を記したものが多く、上に述べた工夫が間違いではなかったと考えております。以下に、いくつかのコメントシートの内容を引用しておきます。私たち授業を担当する者は、このような学生諸君の期待を裏切らないようにしっかり授業をしたいと思います。

***** コメントシートの内容(抜粋) *****

- ◎これから、どのようなことについて学び、考えるかを知れてよかったと思います。「平和」というものを学校での学びなどを通して、ある程度は知っているであろうと思いますが、本講義では、さらに学びが深いものになると思います、次回の授業も楽しみにしています。
- ◎広島生まれ広島育ちである私は小さな頃から平和教育の中で育ってきたと思っている。だから小さな頃から平和について考えることが多く・・・世界平和の実現については私の中では結構熱いテーマである。なのでこの授業のことが楽しみです。それぞれの分野のスペシャリストの方向から平和という授業を見ることができるのが、学ぶことができるのが楽しみで仕方ないです。・・・ここで何かしらの成果を自分の中で生み出せたら嬉しいです。頑張ります。
- ◎・・・高校時代に日本史と世界史を学んできた私にとって、本講義の「世界史のなかのヒロシマ」はとても関心深いことで今からワクワクを感じている。
- ◎・・・まだ受講してみないとわからないことは多くあるが、特に個人的になんとなく気になっていた当時戦時中の日本の終戦への姿勢や終戦の難しさを授業できけるというので、この講座を取った甲斐があるし、始めはあまり乗り気ではなかったが楽しみな授業の1つになった。・・・
- ◎・・・今回のガイダンスを通じて、「平和」は戦争の観点だけでなく、「貧困」や「飢餓」などの様々なグローバルイシューの観点から考えることが大切だと感じました。・・・
- ◎広島出身なので原子爆弾投下についてはある程度学んできました。そのため得ている知識も多いだろうという自覚をもっていました。今日、これからの授業内容の説明を聞いて、今まで注目したことのない分野からの視点ばかりで興味深かったです。自身の知識をより深いものにしていきたいです。

2. 例会の実施

会員の親睦と交流のために、毎年2回程度（春と秋）、広島市内及び近郊の観光地、史跡、施設などの見学会を開催しています。見学はいい気分転換になりますし、しっかり歩くことにつな

がります。参加者が和気あいあい思う存分楽しむ集いとなっています。2024 年秋から 2025 年の春までに以下の例会が実施されました。

2.1. 2024 年度 秋の例会（写真 11、写真 12）

【目的】竹原市への日帰り小旅行（町並み保存地区を観光ガイドの案内で散策）

【日時】2024 年 11 月 7 日（木）10：00～18：00

【参加人数】6 名



写真 11：塩田経営の豪商 旧松坂家



写真 12：藤井酒造の酒蔵交流館内部

2.2. 2025 年度 春の例会（写真 13、写真 14）

【目的】オタフクソース株式会社「本社工場」と「おこのミュージアム」の見学

【所在地】広島市西区商工センター7丁目4-5

オタフクソース株式会社 本社工場および WoodEgg お好み焼館

【日時】2025 年 4 月 15 日（火）12：45～14：45

【参加人数】11 名



写真 13：お好み焼きの店構えと大きな鉄板



写真 14：ガイドの女性と参加者全員

【補足 1】秋および春の2つの例会については、写真入りの詳しい実施報告書が当会ウェブサイト「お知らせ」や「例会などの案内と報告」のページに掲載されています。是非アクセスしていただきたく、特に補足として記載しました。

[お知らせ](#)

[例会のご案内](#)

3. ミニ懇話会の開催（写真 15、写真 16）

会員有志が話題を提供し参加者が自由に質問や意見のやりとりをすることを通じて、会員間の相互理解と親睦を促進することを目指して 2019 年から開催されました。どなたでも参加できます。専門的な内容が素人に分かりやすく説明され、質問や意見を途中で自由に出すことができ、加えて研究に絡む裏話に感心したり大笑いをしたり、など実に和やかな雰囲気集いになっています。2024 年夏から現在まで、下記の開催がありました。

3.1. 第 3 回 広島大学マスタース広島 ミニ懇話会

日時：2024 年 7 月 20 日(土) 15 時 15 分～16 時 45 分

場所：広島大学東千田キャンパス未来創生センター3 階 M302 講義室

（東千田キャンパス正門をに入って左手奥の 4 階建ての 3 階）

話題提供者：大杉 節 会員（広島大学名誉教授、元広島大学宇宙科学センター長）

タイトル：「『NASA ガンマ線宇宙望遠鏡』開発に欠く事のできない重要な貢献をした経緯」

3.2. 第 4 回 広島大学マスタース広島 ミニ懇話会

日時：2025 年 2 月 15 日(土) 15 時 15 分～16 時 45 分(15 時開場)

場所：広島大学東千田キャンパス未来創生センター3 階 M301 講義室

（東千田キャンパス正門をに入って左手奥の 4 階建ての 3 階）

話題提供者：於保 幸正 氏（広島大学名誉教授、元総合科学部）

タイトル：「石瓦（スレート）を通してみた地殻変動」



写真 15：NASA への貢献に対して大杉幹事に贈られた感謝状

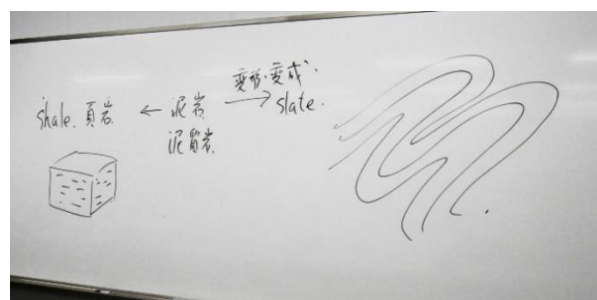


写真 16：於保幹事による石瓦（スレート）の説明が書かれた板書

【補足 2】以上のミニ懇話会の詳細は右記 URL でダウンロードできます。 [例会のご案内](#)

4. 広島大学から依頼された講義の担当

2024 年度に実施の講義および 2025 年度に実施予定の講義について、統括担当者、科目名、開講の時期と場所、受講者数は以下の通りです。特に、平和科目はその意義の重要性や唯一性が

ら文部科学省をはじめ全国から注目が集まっており、被爆地に位置する広島大学を特徴付ける授業科目となっています。健康生活科学は、食物、食習慣、身体機能、病理、放射線などの視点から人の健康長寿を考える、という講義内容です。医歯薬保健学研究科医歯科学専攻の修士課程の社会人大学院生向けですが、例年20～40名の受講者数を維持しています。



写真 17：平和科目の授業の一コマ
(村島修氏撮影、圓山幹事提供)

4.1. 2024 年度

- ・教養コア科目「平和科目」

- (統括・主担当：圓山 裕)「平和と人間 Cー広島で学ぶ(原爆とは何だったか)ー」

- 第2ターム(4学期制) 霞キャンパス 受講：3名【注】

- (統括・主担当：植村 泰夫)「平和と人間 Dー広島から未来に向けてー」

- 前期(2学期制) 東千田キャンパス 受講：71名

- ・大学院共通授業科目

- (統括担当：於保 幸正)「健康生活科学」(医歯薬保健学研究科医歯科学専攻

- 修士課程)後期(2学期制)霞キャンパス 受講：20名

【注】2024年度平和科目Cの受講生数3名については、例年、受講生は見込み総数の4分の1程度が受講していましたが、2024年度は履修要件の変更に伴って齟齬が生じ、受講者が激減してしまいました。今年度に向けて履修要件が見直されたので、受講生数は回復する見通しです。

4.2. 2025 年度(実施予定、講義開始の科目も含む)

- ・教養コア科目「平和科目」

- (統括・主担当：圓山 裕)「平和と人間 Cー広島で学ぶ(原爆とは何だったか)ー」

- 第2ターム(4学期制) 霞キャンパス 受講者数：未定

- (統括・主担当：植村 泰夫)「平和と人間 Dー広島から未来に向けてー」

- 前期(2学期制) 東千田キャンパス 受講：71名

- ・大学院共通授業科目

- (統括担当：於保 幸正)「健康生活科学」(医歯薬保健学研究科の医歯科学専攻

- 修士課程)後期(2学期制)霞キャンパス 受講者数：未定

5. 総会と幹事会の開催

総会は、特別の事情がない限り、毎年度1回、年度初めに開催して当会の前年度の事業実績を報告・検証し、新年度の役員人事と事業計画などを正式に決定する場です。また、幹事会は1～

3ヶ月に一度程度開催し、幹事団が当面の運営に関する様々な事業や項目について、計画や方向性などの検討、実績の検証・評価、あるいは運営上必要な作業などを行います。当会を具体的に運営する母体です。以下に、第11回総会および第55～60回幹事会の開催状況を簡潔に記載します。それぞれ、以下のURLで議事録などのファイルをダウンロードできます。

総会：[会報](#).....幹事会：[お知らせ](#)

5.1. 総会の開催

第11回総会（写真18）

日時：2024年4月27日（土）14:00～16:00

場所：広島大学東千田キャンパス総合校舎L棟5階 L509（多目的スペース）



写真18：第11回総会の様子



写真19：引き続き開催の第55回幹事会

5.2. 幹事会の開催

第55回幹事会（写真19）

日時：2024年4月27日（土）16:30～17:00（第11回総会終了後）

場所：広島大学東千田キャンパス総合校舎L棟5階 L509（多目的スペース）

第56回幹事会

日時：2024年5月17日（金） 14時～16時

場所：東千田キャンパス未来創生センター4階 ミーティング・ルーム4-3

第57回幹事会

日時：2024年7月20日（土） 14時～15時

場所：東千田キャンパス未来創生センター4階 ミーティング・ルーム4-6

第58回幹事会

日時：2024年9月21日（土） 14時～16時

場所：東千田キャンパス未来創生センター4階 ミーティング・ルーム4-6

第59回幹事会

日時：2024年12月7日（土） 14時～16時

場所：東千田キャンパス未来創生センター4階 ミーティング・ルーム4-2

第60回幹事会

日時：2025年2月15日（土） 14時～15時

場所：東千田キャンパス未来創生センター4階 ミーティング・ルーム 4-6

6. 今後の予定

未確定部分が多いですが、これまでの行事をほぼ踏襲していく予定です。

6.1. 例会

2025 年の 9 月～11 月に「秋の例会」を実施する方向で、近郊の適当な施設あるいは場所の見学を幹事会で検討中です。

6.2. ミニ懇話会

2025 年 7 月に、圓山裕幹事を話題提供者として第 5 回を実施する予定です。開催場所と開催時刻についてはできるだけ早く決定して当会のウェブサイトで周知します。（これまで、幹事会終了後に同じ場所で引き続き開催してきました。）

6.3. 広島大学から依頼された講義の担当

2026 年度は、今年度と同様の科目担当を継続する予定です。ただし、講義の有用性を高めかつ授業を円滑に進めるために、講師陣の適切な配置、変更等は随時考えていきます。

6.4. 総会及び幹事会

次の総会および幹事会については、以下の要領での開催を予定しています。

第 12 回総会（詳細は、近日中に幹事会で検討して決定の予定）

日時：2025 年 8 月～10 月の土曜日（開始、終了の時刻については未定）

会場：未定

第 61 回幹事会

日時：2025 年 5 月 10 日（土） 14 時～16 時

場所：東千田キャンパス未来創生センター 4F ミーティング・ルーム 4-5

終了後に、新規会員勧誘のため昨年度末で本学を退職した教職員の方に送付する資料等の封入作業を幹事団で行う予定です。

7. 会員異動

【訃報】謹んでご冥福をお祈りします。 重中義信（元 総合科学部）

広島大学マスタース広島事務局
〒730-0053 広島市中区東千田町一丁目 1 番 89 号
広島大学東千田地区支援室気付
E-mail : masters2@hiroshima-u.ac.jp